



「ほら、クリスマスツリーの飾りができたよ」

12/9 平屋ふれあいサポート事業「巨大クリスマスツリーを作ろう」

広報  
**なんたん**

もくじ

- 2 「あーよかったな、あなたがいる」～子育て講演会～
- 10 写真グラフ ～園部・八木・日吉町文化祭～
- 12 祝・この道一筋、叙勲、表彰、メダル獲得
- 14 行政トピックス 南丹船井交通安全大会、平成17年度一般会計決算ほか
- 24 さようなら2006年 ～ことしのできごと ニュースファイル～
- 26 なんたん歳時記 八木町日置・氷所～夫婦神事～

12月号

2006年 Vol.12

# 人権特集

## 「つながりを感じることで」

子育て講演会 講師・仲島正教さん



# 「あーよかつたな、あなたがいて」

十一月十八日、日吉町生涯学習センターで、今年発足した南丹市PTA連絡協議会の主催による子育て講演会が行われました。十二月の人権週間にちなんで、仲島正教さんの講演内容を広報特集としてお届けします。

赤ちゃんが生まれた時から人権教育がスタートしています。生まれた時から人権教育を受けなかった子どもは、後からしんどい思いをします。「子育て＝人権教育」です。小学校に入學してから人権を学ぶことには、例えばこんなことがあります。入学して初めて出会う人があります。こんな元気な子は見ることがないという子、おとなしい子、時には足の不自由な子と出会います。そんな子を見て、他の子どもたちは、「あの子、何か変やなあー」、

「変な足やあ。人間違うみたいやなあー」…と、言ったりします。僕は慌てて「そんなん言うたらあかん」と言うのですが、もっと大事なものはこの後なんです。勉強を一緒にするようになります。遠足に行ったり掃除したり、そんなことをしながら、だんだんつながっていくんです。やがて、「僕らしい仲間やな、あの時あんなこと言ってごめん。足が不自由なんて関係ない。同じ仲間や、

友だちや！仲よろしゅう！」ってなっていくんですね。これが人権を学ぶ上で一番大切なことなんです。五年生の時にも、人権の勉強をするのですが、何でこんな勉強をするのかって言うと、「優しい人になるためや」っていう授業をするわけなんです。

**「優」には深い意味がある**

「優」の字を黒板に書いて、「優しい」という漢字は「イ

# 「人権を学ぶとは、人と人との温かい

(「にんべん」)に「憂い」と書くけれど、本当は、「憂い」の横に「にんべん」なんだよと教えます。憂いのある人の横に「にんべん」、つまり人が寄り添うことを「優しい」というんだと教えます。

ある子どもが、「最近昼休み、一人ぼっちになるんや。ドッジボールに誘ってもらえへんのや」と言います。

「そうやな。それ、憂いの気持ちやな。辛いな…。そんな時に友だちが横に来て『おい、どうしたんや。元氣出せや。一緒に遊ぼうや』って言うてもうたら、どう思う?」

「ほっとする」、「うれしい!」  
「そうやな。それが『優しい』って言うんや。ほんまに優しいというの、『とつても辛いな。しんどいな』って思ったときに、横におつて『一緒に頑張ろう』って言うてくれる、そういう仲間を優しい仲間って言うんや。そういう仲間になるためにみんなと一緒に勉強したりして、そんなクラスをつくつていこう!そんな学校、そんな社会にしたいな」と教えるのです。

「憂」の横に「にんべん」

と書くのは簡単なのですが、僕ら教師がどこにあるかと言ったら、往々にして「憂」の上に「にんべん」があるんです。よく「頑張れよ、応援してろぞ」と言いながら、上から見ている教師があるんです。それでは、この子の本当の気持ちは分かりません。

上にある「にんべん」を横に持つてくるにはどうしたらいいのか。それは簡単なことなんです。その子のそばに行つて聞いてやることです。ゆつくり聞いてやるのが大切です。

ついつい、ああしろ、こうしろと大人は言つてしまいがちですが、こういうときこそそばに寄つてやる。そんな親でありたい、教師でありたいと思えます。

## 「優しさ」という貯金を!

子どもの心を「心の銀行」って言っているのですが、優しさは子どもの心に貯まつていくのです。

だから、子どもの時に、この銀行にいっぱい貯金をした方がいいと思うのです。

心の銀行に優しさの貯金がいっぱいあると、中学校や高校に行つて辛いことがあつても、その貯金を使いながら何とか乗り越えていきます。

また、自分に貯金があると周りの人に分け与えて励ましてくれるようになります。

ところが心の銀行に貯金が全然ない子が、しんどいことや辛い事に出会つたとき、反応が全然違うのです。「頑張れよ」と励まして「先生、もうほつといて!」、「もう出来ひんから、もう、ええわ!」と言つて投げやりになつてしまふんです。心の銀行に貯金があるかないかで、ここというときに踏ん張れるかどうか、決まってくるんです。

ではどうやって心の貯金をしていけばいいのでしょうか。一年生の担任のときです。粘土細工の授業の最中に子どもが大便秘をしたために、クラスが大騒ぎになりました。子どもが競つて一斉にグラウンドへ出るようにして、他の子どもにも気づかれないよう、教室に一人残つた子どもに処置をして、事なきを得て、ほ

つとしたことがありました。その後、学校であつたことをお母さんに連絡して感謝していただいたのですが、肝心なのは、ここからです。

「ただいま」と言つて帰宅した子どもに、いきなり、「何であんた先生に言わへんかつたん?お兄ちゃんになつて恥ずかしいやないの。しつかりしいや!」と言われ、大泣きして「明日もう学校へ行かへん!」というパターンが最も多いんです。でも、このお母さんは違いました。

「ただいま」と言つて帰宅したとき、「おかえり!さっき先生から連絡あつたで!何かいろいろあつたみたいやな。でもよかつたな。ちゃんとし



# 心から聞いてやる」



させることも大事です。でも「明日から先生と一緒に頑張るなあー」と明日の方向を見せられる、未来を向ける教師にならなあかんなど、このお母さんに教えられたんです。

親や教師は子どもの未来の応援団やと、教えてもらったんです。

## 体温のある「トバをたっぷり

六年生の担任のときに運動会で組み体操をしました。四段ピラミッドをつくりました。そのとき一番土台になっていた子がよく崩れたんです。一番身体が大きいのに、ぐにゃっと崩れるんです。そしたらみんな崩れてしまっただけです。だから「しっかりせい！頑張れや」と大声がつい出てしま

うんです。「先生！痛いんや！先生もやってみいや！」という子どもに対して「何言うとかんや！頑張らんかい！」とケンカみたいになっちゃいます。

この子が帰宅して親に「洗濯しておいてや」と言ったら汚れた体操服を出したとき、「あんな、えらい頑張ってるんやな

」

「何でそんなん分かんねん？」

「あんたこの体操服、肩と背中が汚れとるやないか。あんた土台になって、この上にだれか、乗っとるんやろ、痛いけど頑張ってるや」という会話をしたようです。

次の日の練習の時からこの子は、文句一つ言わずにやるんですね。「今日はええぞー。その調子や、頑張れ」と叫ぶ僕でしたが、何でこの子が突然こんな姿になったのか、その時はまったく分からなかつたんです。

一年、二年の時はお父さん、お母さんはわりと寛大なんです。転んでも、バトンを落としたりしても、笑いで済ましてるんです。ところが、三年、四年、五年、六年になるに従って、「何してんのやー」「応援のしがないやろ！」となつて……。子どもが「もう来んといて！」となるんです。

でも、帰宅した子どもが「リレーで抜かれた」と言ったときに、「そうやな、あんた今年も抜かれたな。でもな今年、抜かれても一生懸命手を振って走ってたな。あんたを

見てて、一生懸命手を振って走っているのがよう分かったわ。あんた頑張り屋さんやな。それに、あんた準備係やったんやな。旗が倒れたらすぐ直している、あんたのきびきびした態度、見ていたで。転げた子がいたらその子の所に駆け寄って、お尻をはたいて、『行けー！』って言うてたやろ。あんな姿見て涙出てしもうたわ。あんたは優しいええ子やな」と言った親がありました。こういう言葉が、体温のある言葉ですね。

また、運動会では、まず、入場門で緊張している子どもの顔を見てやってほしいんです。

そして、運動会が終わってからも見ててください。みんな緊張って後片付けをします。一年生が持てないものを、横から「持ってやるわ」と言っている姿。いろんな子どもの姿があるんです。

子どもたちは思春期になったらやっぱり、足元がふらつきます。そんなときお父さん、お母さんが何か言くと、「うる

てもうて。おやつでも食べて、明日も頑張るな」と言ったら、頭でも撫でられたら、「あつ、叱られへんかった。明日も学校へ行こう！」と、子どもはそんな気持ちになるんです。

ところで、子どもは未来と過去と、どっちを大事にすると思いますか？

子どもは百パーセント今と未来が大事なんです。過去はまあ言うたら関係ないんです。ところが大人は、どうかという過去にこだわるんです。

最初の例の叱った親がそうなんです。でも「いろいろあつけど明日も頑張るな」と言った親は、子どもと同じように未来を向いているんです。すると、子どもは頑張り始めるんです。

もちろん過去のことを反省

子育て講演会

# 「体温のあるコトバをたっぷりと、

さい！ほっといて」と言うんですね。でもお母さんやお父さんに体温のある言葉を言われた時は、子どもって足元を見つめ直すんですね。体温のある言葉には反応するんです。子どもは未来に向かってゆっくり歩いていくんです。いろいろ悩んだり考えたり、ゆっくりとね。逆にいつもせかしているのが大人なんですよね。ゆっくり子どもに考えさせてあげたいです。

## 「十秒の愛」 たかが十秒されど十秒

僕はたった十秒が待てない教師でした。でも、昼休みに赤ペン持って作業していると、きに子どもが「先生！話があるんや」と言ってきたとき、「ごめんな、五時間目に使うのでこれだけせなあかんのや。待っててや、ごめんな、ごめんな」と言っただけで、肩をたたくてやったら、「うん、待ってるわ」と言ってくれます。たった十秒、赤ペンを置くことで、子どもとつながれるんですよ。よくお父さん、お母さんに「家で十秒待っていますか？」

って言うんです。料理をしている時も手を止めて十秒聞いてやる。手を握って聞いてやる。肩を抱いてやる。この十秒の愛情を毎日してやったら子どもは心豊かになるんです。

中学生にも同じように言葉をかけてやる。ああ、思春期で心が揺れているんやなあと思っただけです。この十秒の愛情が大切なんです。

中学生にも同じように言葉をかけてやる。

ああ、思春期で心が揺れているんやなあと思っただけです。この十秒の愛情が大切なんです。

いじめは駄目、仲良くしようと言うのは簡単。でもいじめが無くなっていくのは体験を通してなんです。子どもたちがつながって、仲良くするっていいなあと感動したら、子どもは変わっていくんですよ。感動する経験をどれだけ持っているかですよ。つながって感動することが心地いいことを知っているんです。体験をさせることが大切です。ある時、僕のクラスに障害のある子が入ってきました。子どもがつながるんですよ。その子が苦労している



### 仲島正教氏プロフィール

1956年（昭和31年）兵庫県出石町生まれ、西宮市立小学校教諭、西宮市教育委員会事務局人権教育室指導主事、学校人権教育課係長歴任、現在教育サポーターとして活動、若竹生活文化会館（隣保館）運営委員会委員  
西宮市家庭教育振興市民会議副議長

様子、頑張っている様子を周りの子は見るんですよ。そして助けてくれるようになりました。こんなことが出来る、あんなことが出来る。これは出来るけどあれは出来ないということが子どもたちは徐々に分かかって、子どもたちがどんどんつながっていくんです。あるとき、ゴールパスマの公開授業をすることになりました。僕は、彼女に得点をさせてもらうことにしました。そして子どもたちは怒

りました。「なんで得点係にするんや。一緒にや」と言うんです。でも、何回試合してもチームは負け続けるんです。だから、みんなは毎日放課後の練習を頑張りました。

# 「温かくなる、心の銀行に貯金を」

そして試合の時は、練習したとおり、友だちがパスしたボールをただゴールに入れることを彼女は夢中でやるんですね。シュートが入って、そして勝ったんです。

あの時、子どもたちは彼女が倒れるとすぐに起こしに来てくれるんですね。

その姿を見て、これはすごいな！何てすごい子どもたちなんだ！本当に優しい子どもたちだと思いました。

学級目標に「支えあう仲間」というのを掲げていました。「きみらは本当に支えあう仲間や！素晴らしい仲間や！」と、ほめていました。ほめていたらどんどん子どもたちが変わっていくんです。

そして「大丈夫か！よし今度は自分で立って！」という掛け声に促して彼女は自分の力で立つんですね。

こんな姿を見ていて、優しさというのは、上に人がいるのとは違う。そこで一緒に苦しみ悩み、一緒に力をつけて伸びていくんやということ、子どもたちに教わりました。

優しさというと、ひ弱いイ



メージがありますが、本当の優しさというのは、強さなんだということを示唆していました。

教師や親は、子どもがつまづいた時にどうしますか。そのままずきずきを取ってやろうとしますよね。それは親心、教師心というものかもしれない。でも本当は、それを乗り越える力をつけてやることなんです。乗り越えさせて自信をつけてやることなんです。

ね。みんな苦しくてやり逃げたという自信のある子どもたちは、中学校へ行っても、でも頑張ろうという気持ちになる。そういう子どもは高校へ行っても、会社へ行っても、張ろうという気持ちになれるんです。優しさをいっぱいも

らった子どもは、周りにきつと与えてくれます。そういう体験が基になっていくと思う

んです。だから反対に小さいときから自分勝手に世間体だけを気にするということに育てられたら、やっぱりそれが大人になってからの価値観になっちゃう。そしてその子も自分勝手になっちゃうんです。だから、友だち同士、みんなで一緒にやる、やったというつながりを持つこと、大きな体験をすることが、豊かな人生を送る原動力になるんです。

「先生！私には『憂』という字は、百の愛に見える。憂いのある人には百の愛をあげたいいなや。そしてたらその人きつと元気になるで」と言った子どもがいます。僕には人に百の愛があるというふうに見えていなかったのです。すごくびっくりしました。

## 自尊心を育てましょう

人権教育の必要性が叫ばれていますが、私は、「自尊心を育てましょう」と言っています。

自尊心というのは自分のことを好きになるということです。自分のことを好きになって豊かな気持ちになったら、優しくなれるんですね。友だちのいいところを見つけてうという授業をやっているんです。人権の学習ではそういうことをしています。

「自分のどんところが好き？」と四年生に聞きました。

・友だちがいっぱいいる自分が好き  
・家の用事を毎日する自分が好き

などと子どもたちは答えます。「二年、三年と一度も欠席したこと無いなあ。なかなか出来

# 「優しい風が吹くと冷えた心も

ることと違うので。漢字テストで百点取ることより素晴らしいで」と言ったら、

・風邪をあまりひかない自分が好き

と書いたんですね。

・自分の夢を持っている自分が好き

子どもが一年生の時に、「大リーグ選手になってお金持ちになったら、家を建ててあげろ」と言ったら、どの親も「頑張りや〜」って応援しますね。ところが六年生になって同じこと言ったら親は、「それは無理と違うか」と言ってしまうんです。子どもは、無理だということも大きくなるに従って自分で感じるようになってきます。お父さんやお母さんの役目は、子どもの夢を応援してやることです。頭ごなしに夢を押しつけるのは駄目なんです。お父さんやお母さんは、子どもの未来の応援団の中でも応援団長なのです。

ある中学校で荒れてる中学生がいました。家で、その子にお母さんが、「あんたなあ、学校で暴れたなあ。あんたのことお父さんもお母さんも好きなんやで。お父さんお母さ

んにとつてあんたは宝物みたいなもんや。あんたがそんなことしたらお母さん悲しいわ」と言うのですが、学校でまた

暴れるんです。でも、どっかでギョッとブレーキがかかるんです。どっかでお父さんやお母さんの顔が浮かぶんです。

ところが逆に、「あんたみたいな子はうちの子とは違うわ」といって見放されたら、ブレーキがかかっていかないうです。一人でも二人でも自分のことを愛してくれる人、応援してくれる人がいたら頑張れるのです。子どもはね、一人でも二人でも自分のことを見つめてくれてる人がいると安心します。頑張れるのですね。

・お父さんが好きな自分が好き

と書いた子がいました。

お父さんとお母さんが離婚してお父さんと二人きりになったんです。この言葉を見た僕はうれしくて、個人懇談会が一カ月先だったんですが、すぐ電話をかけて訪問しました。お父さんは「あいつがそんなことを書いたんですか?」と言って、涙をボロボロとこ

ほされました。運動会の時も仕事があるのに休みをとって来たり、遠足の時も朝四時に起きて弁当作ったりしたお父さんの温かい気持ちを息子はしっかりと受け止めていたんですね。

## 優しいさのシャワーを

・どんくさい自分が好き  
と書いた子がいました。

お母さんの「あんたいつもどんくさいけど、最後まで頑張るあんたの姿が好きやで」という言葉を子どもは受け止めているんですね。お父さんの「お父さんもどんくさいところあるねん。どんくさい者同士頑張るな」という言葉。友だちの「お前どんくさいかもしれんけど、お前とおつたら心が温かくなるねん。せやからこれからも、友だちでいよな、仲良うしようなあ」という言葉。そうした言葉を聞くのと、その子はどんくさい自分が嫌いと思っていたけれど、そ

ういう自分を受け止めてくれるお母さん、お父さん、ほめてくれる先生、励ましてくれる友だちがいると自信をもってくるんです。そして輝いていくんですね。その輝いていく姿を見てお父さん、お母さんも輝いていくんです。この自尊心という、自分を好きになるという事は、「自分のことが好きなんや」と言っているものではないんです。

どうやってなれるかって言うと、周りの声が育ててくれるんですよ。お父さんやお母さん、先生や友だちからほめてもらったり、励ましてもらったりする愛情のシャワー、優しいさのシャワーをいっぱい浴びると育っていくんですね。でも逆に冷たいシャワーを浴びることもあるんですね。先生にしかられたりするんですよ。でもまた、愛情のシャワーをいっぱい浴びることによって子どもたちは、優しく、たくましく強く、育っていくんですね。



# 「夢をあきらめないで。未来を見よう」

だから、普段の生活の中で子育ての中で、学校教育現場の中に、家庭で社会で子どもたちに温かい愛情のシャワーをいっぱい浴びせたいですね。

## みんなつながっている

六年生になって卒業する時、子どもたちに言いました。「今、このクラス三十五人おるな。この中で人間のいい順にお前ら並べ」

「先生何言うてんねん。先生はこの一年間、『人間には良いところと悪いところがあつて、人間には順位が決められへん』て、いつも言うてきたやんか。それはウソか?」「ウソ違う、それはほんまや。さあ!並んでもらおうか!」「だれが良い人間で、悪い人間か、立ち上がつて言うてみい」ある子が立ち上がつて、「このクラスには悪い子は一人もいません」と泣きながら言うんです。「そうや、そうや、先生何言うてんや、先生なんか嫌いや」と次々に周りの子が言つて、大騒ぎになつて、でもまだ、「さつさと並べ!出来ひんのん

やったら帰れ!」と言つて、子どもを帰らせました。

子どもが帰つて学校であつたことを報告すると、親はごつつう怒らはつたんですね。「なんちゅう先生や!仲島先生はいい先生や思うたけどひどい先生やな!」

子どもたちの日記を見たらもつとすごいことが書いてありました。

「昨日まで先生のこと好きやつたけど、もう嫌いになりました。早くどつかの学校に替わつてください」

「昨日まではお世話になりましたが、今日からはお世話になりません」

でも僕は、「さあ、昨日の続きするぞ。これが出来ひんと卒業出来ひんぞ」

そう言うときさすがに子どもはおかしい:と思ひ始めるんですね。

ある子に「先生、邪魔やから、職員室帰つておいて」と言つて追い出されました。そして、一時間ぐらい経つて、「先生出来たで」と言つて呼びに来ました。

「どうかな:と思つて教室に入つてみると、真ん中を広く

して男女が交互になつて中を向いて一つの円になつて待つていてくれました。その円の中に入つて行つて、「だれが一番ええ人間や?」と聞くと三十五人みんな一斉に手を上げる。

「だれが一番悪い人間なん?」と聞くとみんな目を合わせながら、スーッとみんな手を上げました。

「そうや、その通りや。これでみんな全員、無事卒業やな。よう考えたなあ。今こうして三十五人が一つの円になつて、みんなよう見てみ!自分以外の三十四人の顔がよう見えるやろ。いろんな辛いことがあつたけどみんな一つの輪になつて乗り越えてきたやろ。これから中学校、高校、社会人になつていく中で、しんどい時が絶対ある。でもそんな時みんな輪になつて乗り越えてきたこと思い出すんや。そして中学校や高校、社会人になつても新しい輪をつくつて協力していくんやで。家庭で地域で輪をつくるんや。家族で輪をつくれるお父さん、お母さんになろうな。人間一人

やったらしんどいけど、辛いことも乗り越えていけるんや。」

「そうやって人生歩んでいこな。卒業おめでとう」

子どもたちは言います。「俺このクラスでよかつた。〇〇ちゃんがいってくれて、よかつたわ」

「先生に会えてよかつたわ」うれしいですね。でもそうなんです。「あー、よかつたな。あなたがいて」と思える人生、子育てをしたいですね。みなさんも、子どもが小学生以下だつたら十秒抱きしめてやつて言つてやつてください。中学生になつたら言葉だけでも「あなたがいてよかつた」と言つてください。夫婦間でも、おじいさんやおばあさんにも言つてください。

「あーよかつたな あなた」とい。ワタシ 幸せ!」





12月4日～10日は  
人権週間です

# 人権を大切に 南丹市人権教育・啓発推進協議会発足

人権教育・啓発については南丹市の新市建設計画において、「人権を大切にすまちづくり」を掲げ、「あらゆる市民が人として大切にされ、差別されることなく暮らせる社会を築いていくことは、快適で住みよい新市のまちづくりをすすめるうえで基本となる」としています。

今日まで、旧町においては教育啓発を自主的に行う団体を組織して、差別のない明るいまちづくりにむけて、積極的な取り組みが進められてきました。

こうした活動をより発展、充実したものとするため、組織の一本化に向けて、設立準備委員会が組織され、八回の委員会を経て十一月二十二日「南丹市人権教育・啓発推進協議会」の設立総会が行われる運びとなりました。

設立総会では、同和問題をはじめとするあらゆる人権問

題の解決に向けて、住民一人ひとりが自らの問題として、人権問題に対する正しい理解と認識を深め、日常生活の中で豊かな人権感覚をはぐくみ、人権教育啓発の推進を図りながら、人権を尊重し、心のかよう温かいまちをつくっていくことが確認されました。またこの目的に賛同する市内の約百二十の団体に呼びかけて活動がスタートしました。

具体的な活動は、活動内容の企画立案をはじめ、広報紙やCATVを活用した広報、人権擁護のための研究、企業や各種団体への協力依頼や研修などの充実を図るために四つの「部会」を構成して、活動を行っていくこととされました。

また、市と協賛して人権講演会を開催するなどの事業計画が盛り込まれたほか、地域で人権教育・啓発活動が行えるような体制づくりに取り組むことになりました。



南丹市長  
佐々木 稔納

「心のかよう温かいまちを」人権教育や人権啓発につきましては、市民の皆さま一人ひとりが、自らの問題として、人権問題に対する正しい理解と認識を深めていただき、人権を尊重し、心のかよう温かいまちづくりのために、ご協力いただくことが大切だと考えております。

本協議会の設立にあたり、設立準備委員の皆さまに深く感謝を申し上げますとともに、今後、市民の皆さままで構成される本協議会が、人権が尊重される社会の実現にむけて、重要な一翼を担っていかれることをご期待申し上げます。

市といたしましても今後、地域の実情に応じた人権教育・啓発事業の実施、人権教育・啓発資料の作成などを行うこととしていきますので、より一層の市民の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

# 彩り花開く

11月3日から、園部町、八木町、日吉町で恒例の文化祭が多彩に展開されました。日ごろ市内で活動しているサークルを中心に美術、写真、書道、華道、文芸などの展示、音楽や舞踊、劇、琴などの舞台発表やお茶席などが行われました。

文化祭は、これまで旧町において開催されてきた行事で、芸術鑑賞の機運を醸成し、心豊かな人間性の啓発と文化の高揚を図る機会となっています。

期間中、多くの市民が展示作品や舞台芸能の数々にふれ、芸術の秋を満喫しました。

その様子を写真でお伝えします。



▲柳姿会幼児の部(日吉町)



▲畑バレエ教室(日吉町)



▲写真展(八木町)



▲女声合唱団「オーチャード」(八木町)



▲柳姿会・ひまわり劇団(日吉町)



▲はんど・HAND(日吉町)



▲囲碁大会(八木町)



▲ウミツトライン(日吉町)





▲お茶席(八木町)



▲お茶席(日吉町)



▼パッチワーク展示(園部町)



▶生花(園部町)



▶絵手紙展示(園部町)



# 文化の秋



▶八木町吹奏楽団(八木町)



▲八木町社交ダンス愛好会(八木町)



▲書道展(八木町)

南丹Lavenders(日吉町)▼



「ひと昔前の八木」パネル展(八木町)▲



▶習字展示(園部町)



▲「遊youひよし」  
ホール客席  
(日吉町)



▲「菊花展」  
(八木町)

切り抜き人物写真は  
「名人☆誕生、素人芸能  
フェスティバル」(園部町)

輝く笑顔  
応援します



「心豊かな子どもたちの  
育成・指導に尽力する」

### 瑞宝双光章

小畑 弘さん(美山町・78)

昭和二十三年以来、四十一年余りにわたって、学校教育

## 秋の叙勲 褒章受章者



「信頼関係を築き  
更生保護活動に努める」

### 藍綬褒章

上野 嘉雄さん(園部町・74)

昭和六十年から保護司を務められて、二十一年余り。保護司として上野さんが信条とされているのが、「相手を信じて話すこと」。いつも「心を開いて話したくなる環境をつくること」を心掛け、罪を犯した人々の更生や犯罪予防活動

などに尽力。奉仕の精神に徹して保護観察対象者やその家族に深い信頼感を与え、適切な処遇活動などで更生に導いてこられました。今後も、信頼関係を築くことを第一に青少年の更生に情熱を注いでいかれます。

に熱意と情熱、行動力をもって従事され、小学校教諭や教頭・校長を歴任。青少年問題や学校・家庭・地域が連携した子どもを育てる環境整備の必要性をいち早く提起し、その取り組みを積極的に推し進められました。特に人権教育啓発活動を展開して、人を大切にする町づくりの推進に貢献されたほか、かやぶきの里美山を全国に発信。美山町文化協会会長としても町内の文化活動を広く推進されました。

### 園部町民生児童委員協議会

昭和五十年四月設立以来、三十一年余り地域住民の身近な相談者として地道な活動を続けてこられ、特に、市外の扶養義務者にまちの特産品を送るなどして絆を強める活動支援を展開。さらに、災害時の協力体制の構築。こどもたちの下校時の見守り隊を結成して活動を続けてこられ、民生委員優良活動団体として表彰されました。また、会長の高井豊さんは全国社会福祉協議会長表彰を受賞され二重の喜びとなりました。

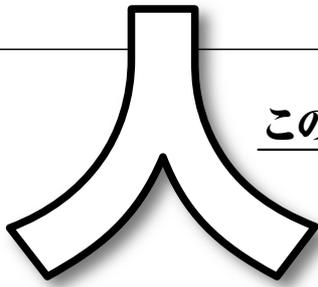


### 食生活改善推進協八木支部

南丹市食生活改善推進員連絡協議会は三十六年という長年にわたり、食生活改善に向けた活動を行い、このほど功績が認められ、厚生労働大臣表彰を受賞。地域での減塩指導、男性の料理教室の開催、地元の素材、季節の旬のものを生かした「子どものおやつづくり」の試食活動などを始め、毎年開催された町開催の「健康づくり大会」への協力参加や正しい食生活を指導する活動を展開されています。



## 厚生労働大臣表彰



この道☆ひと筋



「身体障害者と共に生きる  
社会の実現をめざす」

旭日中綬章

徳川 輝尚さん(園部町・75)

全国に先駆けて身体障害者療護施設の設置運動を展開され、長年の献身的な活動の結果、昭和四十七年、わが国初の療護施設として「こひつじの苑」が開苑。以来、施設長として「最も援助を必要とする最後の一人の尊重」を基本理念に、いかに障害が重くてもその可能性を限りなく追求し、共に生きる社会づくりに努めてこられました。また、昭和五十五年には重度身体障害者授産施設「京都太陽の園」を設立、昭和六十二年には舞鶴市に身体障害者療護施設「こひつじの苑舞鶴」を設立。重度身体障害者が生きる喜びを見出し、安心して生活できる環境づくりに、厚い情熱と強い責任感

旭日双光章

「福祉施策の充実に尽力」

故・今西 光治さん(八木町)

故・今西光治さんは、昭和五十年から十二年間、八木町議会議員に就任。その間、文教厚生常任委員長、監査委員として活躍されたほか、元八木町傷痍軍人会会長、元八木町身体障害者福祉協会会長、元船井郡身体障害者福祉団体連合会会長、京都府身体障害者団体連合会代表副会長を歴任され、教育や福祉の充実、交通対策など、まちづくりの礎となる施設整備や制度の充実・発展に尽力されました。ご冥福をお祈りいたします。

を持って貢献。全国の福祉従事者のリーダーとして、重度障害者福祉推進の中心的役割を果たされています。

旭日単光章

「園部のまちづくりに尽力」

故・今井 源一さん(園部町)

故・今井源一さんは、昭和四十一年から四年間、園部町議会議員、四十六年から七年六カ月間、園部町長として地方自治の発展に大きく貢献されました。特に、上水道事業や簡易水道事業の推進に尽力。さらに、住民センターや文化センター、児童・老人会館の建設、園部幼稚園、園部小学校の改築工事や園部町中央公民館を建設するなど、町づくりの根幹を成す施策の推進に大きな功績を残されました。ご冥福をお祈りいたします。

祝金、銅メダル獲得  
のじぎく兵庫大会で活躍

「第六回全国障害者スポーツ大会のじぎく兵庫大会」のフライングデイスク競技で、松本弘子さん(八木町野条・写真右)と松本辰雄さん(八木町玉ノ井・写真左)の二人がそれぞれ金と銅メダルを獲得しました。

この大会は、五年前から開かれ、今回の競技には全国から約三百五十人が参加。年齢や障害の程度に応じて競い合い、グループ一位に松本弘子さんが入賞。また、的に当たった回数を競う部でも松本辰雄さんが三位入賞と大活躍しました。





# あなたの住民税が 変わります

市町村が自主性を発揮し、より身近な行政サービスが出来るようにと、平成十九年度から国の所得税から地方の住民税への税源移譲が行われます。そのために、市民の皆さんに納めていただいている住民税が大きく変わります。

従来の課税方法 <small>(速算控除額とは一括計算する場合に用います)</small>			改正後の課税方法
<b>市 民 税</b>			課税所得にかかわらず、一律10% (市民税6%、府民税4%) ☆例えば課税所得が300万円の場合 $300万円 \times 10\% = 30万円$ ※実際の税額は、このほかに人的控除の差に対応した減額措置が講じられます。
課税所得の段階	税率	速算控除額	
200万円以下の金額	3.0%	0円	
200万円を超える金額	8.0%	100,000円	
700万円を超える金額	10.0%	240,000円	
<b>府 民 税</b>			
700万円以下の金額	2.0%	0円	
700万円を超える金額	3.0%	70,000円	

課税所得とは… 皆さんの給与や事業収入などは税法上「収入」と呼ばれるものです。「課税所得」とは、この「収入」から給与所得控除や基礎控除、扶養控除、社会保険料控除といった諸控除を差し引いた残りの金額のことです。この「課税所得」に税率をかけたものが「税額」となります。

**Q** 税負担はどうなるの?  
**A** 納税者負担は変わります

私たちの所得には、国税として所得税が、地方税として住民税がかかっています。住民税には、均等の額を負担する「均等割」と、その人の所得金額に応じて負担する「所得割」があり、通常、京都府の税(府民税)と南丹市の税(市民税)を合わせて住民税と呼んでいます。所得税が一年間の所得に対してその年に課税されるのに対し、住民税は、前年の所得に対して課税されます。なお、住民税の徴収は、府民税と市民税を合わせて市が行っています。

## 税源移譲

国から地方へ

今回の税源移譲は、個人の所得にかかる国税を、地方税に移すので、住民税が増えても所得税が減ります。そのため納税者の負担はこれまでと基本的に変わりません。住民税所得割の一〇割比例税率化に伴い、国が徴収する所得税の税率構造も見直されます。

### ▼独身者の場合

給与収入	税源移譲前(単位:円)			負担増税額
	所得税	住民税	合計	
300万円	124,000	64,500	188,500	0円
500万円	258,000	163,000	421,000	0円
700万円	474,000	307,000	781,000	0円
1,000万円	966,000	553,000	1,519,000	0円

税源移譲後(単位:円)			負担増税額
所得税	住民税	合計	
62,000	126,500	188,500	0円
160,500	260,500	421,000	0円
376,500	404,500	781,000	0円
868,500	650,500	1,519,000	0円

### ▼夫婦+子ども2人の場合

給与収入	税源移譲前(単位:円)			負担増税額
	所得税	住民税	合計	
300万円	0	9,000	9,000	0円
500万円	119,000	76,000	195,000	0円
700万円	263,000	196,000	459,000	0円
1,000万円	688,000	442,000	1,130,000	0円

税源移譲後(単位:円)			負担増税額
所得税	住民税	合計	
0	9,000	9,000	0円
59,500	135,500	195,000	0円
165,500	293,500	459,000	0円
590,500	539,500	1,130,000	0円

※夫婦+子ども2人の場合、子どものうち、1人が特定扶養親族に該当するものとしています。

また、一定の社会保険料が控除されるものとして計算しています。

★このほか、実際の負担増減額には、平成19年から定率減税が廃止される等の影響があるにご留意ください。

ら一〇割に引き下げとなり、所得税については逆に、最低税率が一〇割から五割に引き下げられ、最高税率が三七割から四〇割に引き上げとなります。また、人的控除の差に



▲市内啓発パレード

## 交通事故のないまちの実現へ

第一回南丹船井交通安全大会  
十一月十八日、南丹市園部公園内のすばく園部をメイン会場にして、第一回南丹船井交通安全大会が行われ、参加者が交通事故根絶への決意を新たにしました。

大会では、市内啓発パレードや交通安全功労者への表彰に続き、園部幼稚園の園児や南丹市・京丹波町老人クラブ連合会会長が交通安全宣言。啓発や体験コーナーで生命の重みを見つめ直しました。

## 社会参加と自立を目指して

—初の南丹市身体障害者福祉大会—

南丹市身体障害者福祉会が障害のある人の社会参加と自立を考えようと十一月十七日、初の南丹市身体障害者福祉大会を日吉町生涯学習センターで行いました。

大会では、自立更生者や功労者の表彰に続き、同福祉会支部の関係者が活動報告したほか、障害のある人の自立を盛り込んだ大会宣言を採択。「京都太陽の園」



▲徳川理事の講演

の徳川輝尚理事の講演などを通して障害のある人をめぐる課題や生活の向上促進に向けて理解を深めました。

対応した減額措置なども講じられます。

これらの措置により、税源移譲の前後で「住民税+所得税」の納税者の負担は変わりません。

右ページの下図は、税源移譲による負担変動を示すものです。

このほか、平成十九年分所得税、平成十九年度分住民税から定率減税が廃止されるなど、税額に影響があることにご注意ください。

この内容は、平成十八年度税制改正における地方税法の改正内容などに基づいています。

税源移譲に関する改正は、平成十九年度分の住民税から適用される予定です。

詳しくは税務課へお問い合わせください。

○農業所得申告は「収支計算」で

農業所得の計算は、収入金額から必要経費を差し引く「収支計算」が原則ですが、こ

れまでは、申告の目安として農業所得標準を適用して申告が出来ました。しかし、平成十八年分の確定申告（平成十九年二月から三月申告分）から、これまでの農業所得標準による申告が出来なくなり確定申告では、実際の収入金額から必要経費を差し引く収支内訳書を作成して申告いただくこととなります。

○記帳相談会を開催します

収支内訳書を作成するには、出荷伝票などの収入金額の分かる書類と、領収書などの支払い金額の分かる書類が必要になります。

収支内訳書の作成についての記帳相談会を開催します。支所ごとで開催日が異なりますので詳しくは「お知らせあなたん」をご覧ください。

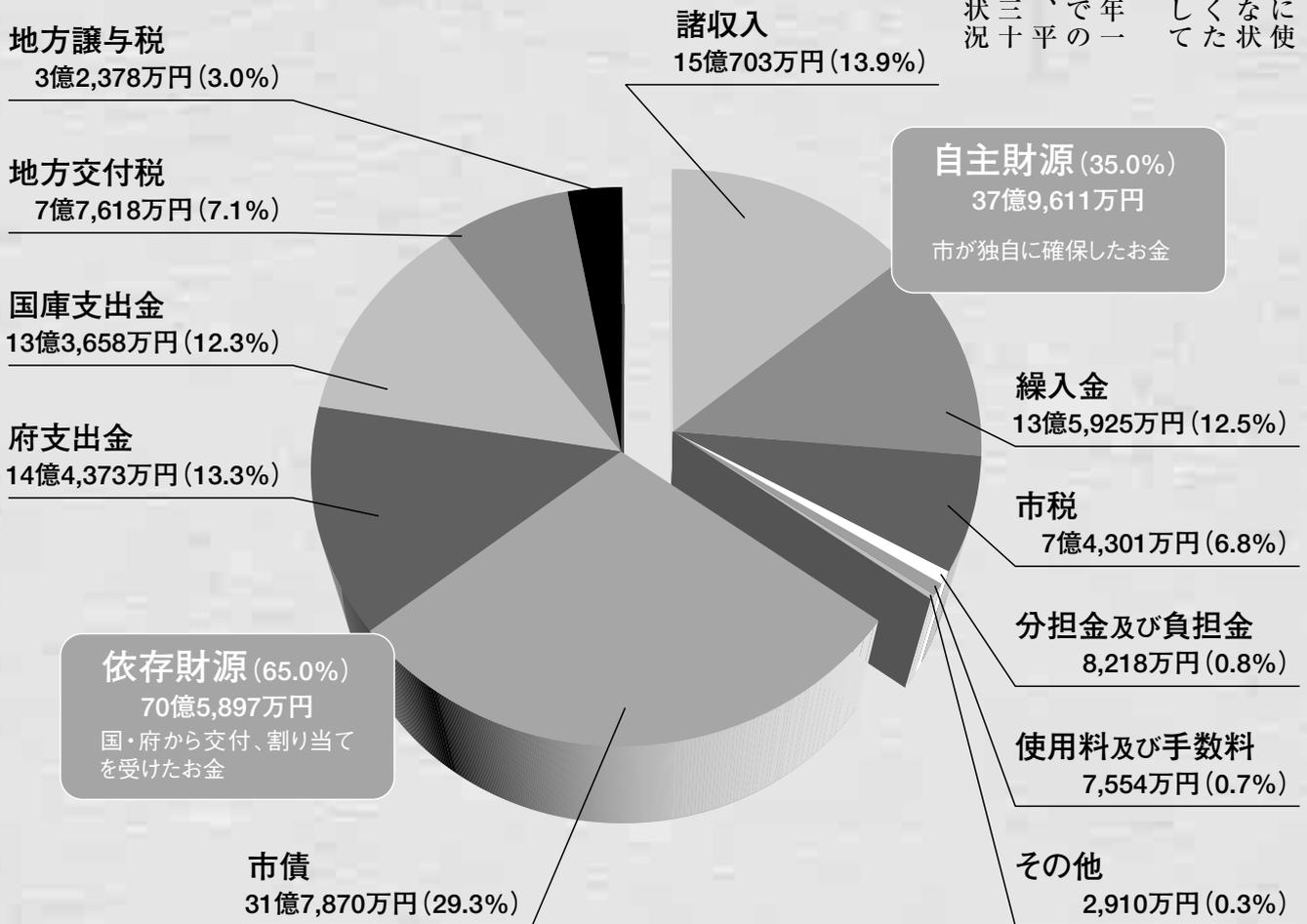
（お問い合わせ先／税務課  
電話六八—〇〇〇四）

# 状況をお知らせします

**一般会計 歳入 108億5,508万円**

合併後のみの決算です (平成18年1月1日~3月31日)

皆さんの税金がどのように使われ、市の財政がどのような状況にあるかを知っていただくため、年二回財政状況を公表しています。  
今回は合併後の平成十八年一月一日から三月三十一日までの三カ月間の決算状況報告と、平成十八年四月一日から九月三十日までの半年間の予算執行状況をお知らせします。



平成十七年度（平成十八年一月一日より平成十八年三月三十一日）の一般会計予算は歳入総額百八億五千五百八万円、歳出総額百二億九千九百二十九万円となりました。歳入歳出差引残高は五億五千五百七十九万円です。このうち翌年度へ繰り越す事業の財源一億千五百五十三万円を差し引いた実質収支額は、四億四千二十六万円の黒字決算となりました。

ただし、事業実施に当たっては、市の貯金となる財政調整基金から約九億円を繰り入れるなど厳しい決算状況となっております。

南丹市では、今後も事務事業の見直しを積極的に、長期的に安定した健全な財政運営を目指します。

## ■一般会計の決算



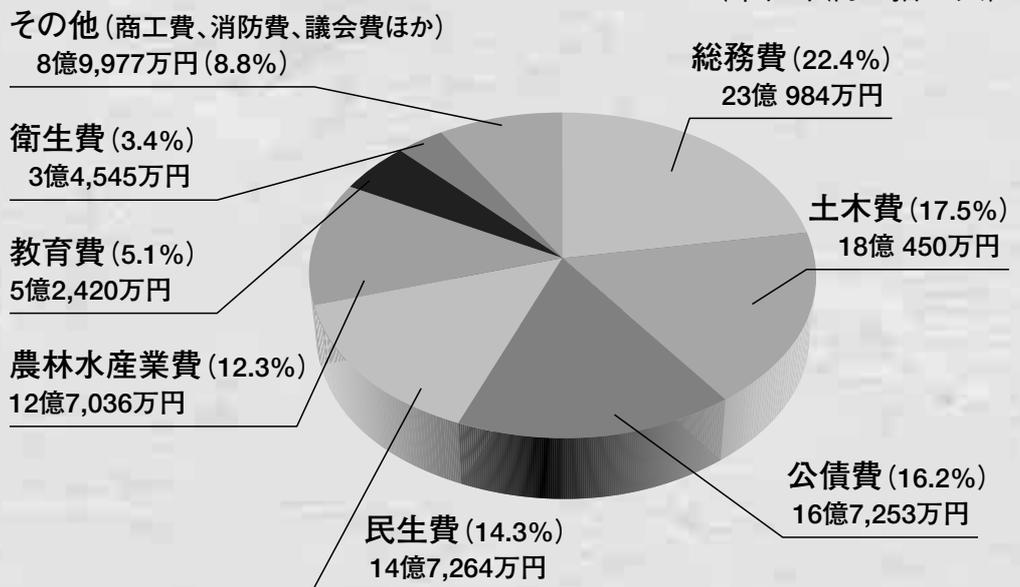
▲美山支所

# 南丹市の 財政

## 平成17年度 決算

一般会計 歳出 **102億9,929万円**

(単位未満四捨五入)



### 特別会計の決算

特別会計とは、特定の事業を行うために一般会計と分けられている会計のことです。国などの補助もありますが、その

経費は受益者(サービスを利用する方)が負担するのが原則です。南丹市の特別会計は八つの特別会計があり、それぞれの平成十七年度の決算状況は下記のとおりです。

### 特別会計

会計名	歳入	歳出	差引
国民健康保険事業	13億1,779万円	12億8,666万円	3,113万円
老人保健事業	14億5,069万円	14億4,971万円	98万円
介護保険事業	11億2,823万円	10億2,906万円	9,917万円
市営バス運行事業	5,864万円	5,328万円	536万円
簡易水道事業	10億2,803万円	10億 87万円	2,716万円
下水道事業	27億7,649万円	26億8,769万円	8,880万円
商品券事業	2,062万円	577万円	1,485万円
土地取得事業	1億1,656万円	1億1,556万円	100万円

### 企業会計

会計名	歳入	歳出	差引
上水道事業	収益的	1億 694万円	1,203万円
	資本的	1億 167万円	2億 9,868万円

### 企業会計の決算

企業会計とは、市が直営する企業の会計をいいます。経営できる企業は、公共の利益を目的とするもので、特別に定められたものだけです。南丹市の場合水道事業を

企業会計としており、収益的収支では、千二百三万円の純利益(黒字)を計上することができました。資本的収支では、一億九千七百一十万円の収入不足が生じましたが、積立金などで補てんしました。

# 上半期歳入・歳出状況

※繰越予算を含む

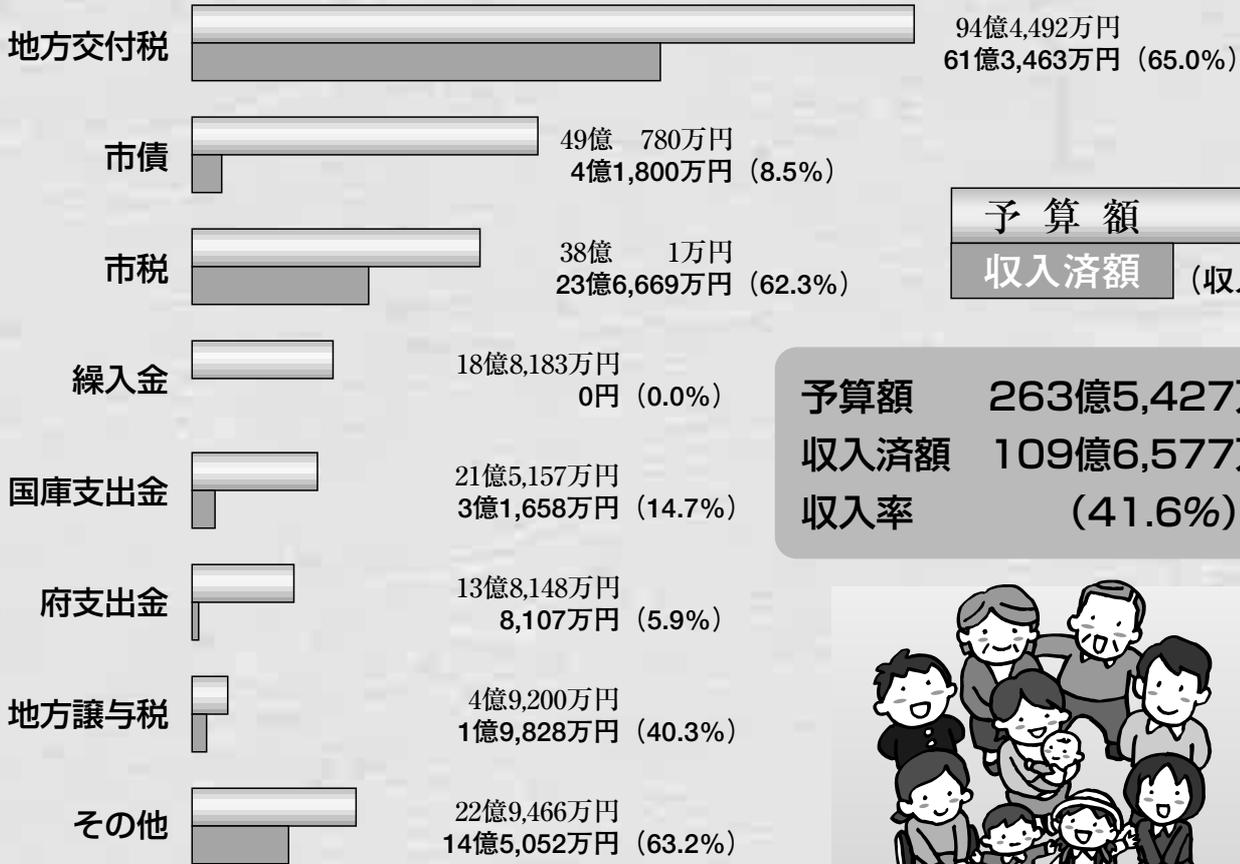
平成18年度上半期（平成18年9月30日現在）の歳入・歳出状況をお知らせします。

（単位未満四捨五入）

## 平成18年度 予算

### 歳入

### 一般会計 予算の執行状況



予算額

収入済額

(収入率)

予算額 263億5,427万円  
収入済額 109億6,577万円  
収入率 (41.6%)



### 市の借入金

借入現在高 670億1,537万円

一般会計 350億8,636万円  
特別会計 319億2,901万円

小・中学校の校舎のように将来まで役立つ施設の建設費などを、次世代の人々にも負担していただくという考えに基づき、借り入れるものです。

市民1人当たりの借入金 804,160円

うち交付税で補てんされる分は378億2,276万円(56%)で実質市民1人当たりの借入金は804,160円となります。

※介護保険事業特別会計分除く。

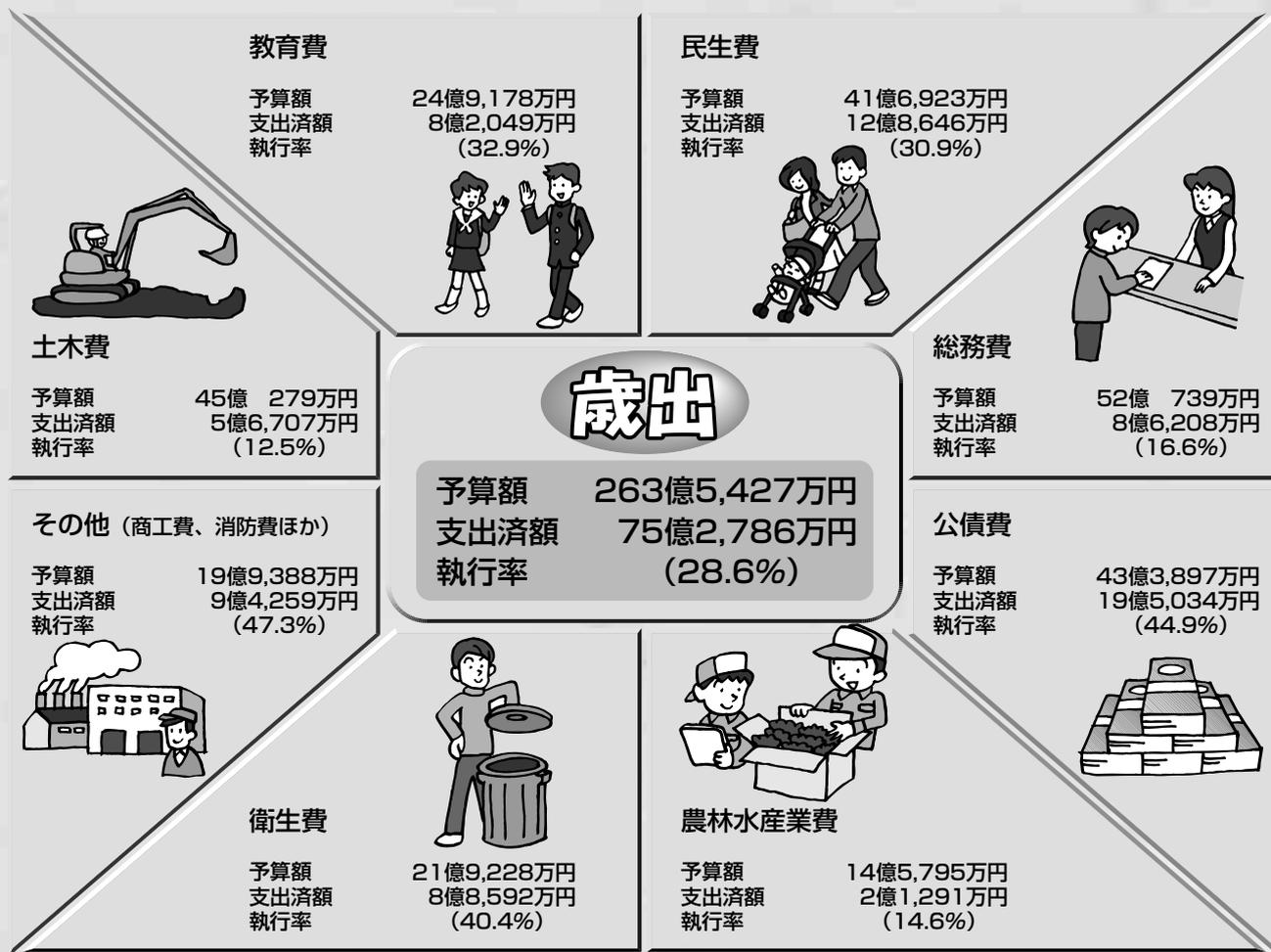
1世帯当りに使われる市のお金  
1,940,811円

1世帯当たりが負担する税金(市税)  
279,845円

市民1人に使われる市のお金  
● 725,973円

市民1人が負担する税金(市税)  
104,678円

※平成18年9月30日現在の世帯数と人口を基にしています。



## 特別会計 予算の執行状況

国民健康保険事業	
予算額	33億8,995万円
収入済額	10億3,224万円
支出済額	13億2,492万円

老人保健事業	
予算額	41億9,851万円
収入済額	15億9,845万円
支出済額	17億2,060万円

介護保険事業	
予算額	28億8,770万円
収入済額	11億2,956万円
支出済額	10億6,460万円

市営バス運行事業	
予算額	4,452万円
収入済額	1,683万円
支出済額	1,438万円

簡易水道事業	
予算額	18億9,990万円
収入済額	2億2,184万円
支出済額	3億8,372万円

下水道事業	
予算額	38億9,269万円
収入済額	3億9,521万円
支出済額	8億8,557万円

商品券事業	
予算額	5,635万円
収入済額	1,924万円
支出済額	800万円

土地取得事業	
予算額	2億 30万円
収入済額	3,413万円
支出済額	3,310万円



## 企業会計 予算の執行状況

### ■ 上水道事業会計

区分	収入予算額	収入済額	支出予算額	支出済額
収益的	4億2,970万円	2億2,650万円	4億 239万円	7,217万円
資本的	6億2,833万円	385万円	7億5,933万円	5,642万円

## 年末年始を元気に過ごすために ～体の掃除力をアップする食生活～

# いきいき南丹

—10—



お元気ですか?  
栄養士です。

年末年始は外食する機会が多く、食生活のコントロールが難しくなる時期です。食べ過ぎ、飲み過ぎ、不規則な生活、精神的なストレスが積み重なると頭痛、疲労、肌荒れ、便秘など体の不調を招きやすくなります。皆さんは、この様な不調を感じたことがありますか?

これらの原因として、肝臓、腸の疲れが考えられます。普段私達は、栄養を「入れる」ことに注意がいきがちですが、不要物を「出す」ことにも気を使いましょう。今回はその働きをしてくれる肝臓と腸を活性化させる食事と日常生活の秘訣についてご紹介します。

### 肝臓が弱っている時のサイン

・手のひらの各指のつけ根のふ

くらみの色が斑紋状はんもんじょうになっていく。

・血液検査の結果、AST、ALTの数値が3けた台になると要注意。(AST 13 / 35 IU / l、ALT 8 / 48 IU / lが基準値)

### 肝臓と腸を元気にする7か条

#### ①アルコールは適量に

アルコールは肝臓に負担をかける程度に。日本酒なら一合、ビールなら大びん一本、ウイスキーならシングル二杯が一日の目安です。週に一〜二日は休肝日をお勧めします。

#### ②毎食野菜料理をとり、ビタミン補給を

外食すると野菜不足になりがちです。また、肝臓で解毒や代謝をおこなう際の材料に、ビタ

ミンが必要です。毎食、野菜料理を一〜二皿(一皿70g程度)はとるように心がけましょう。

#### ③脂肪は控えめに

肝臓は主に炭水化物や脂肪を分解してエネルギーを産生しますが、多量になると脂肪としてため込んでしまいます。腹八分目に心がけ、肉の脂肪のとり過ぎ、油料理が多くならないように注意しましょう。

#### ④食物繊維をしっかり摂取

食物繊維は腸に刺激を与え排便を促進します。一日20gの摂取が目安ですが、野菜を300g食べても食物繊維は10g程度です。野菜の他に芋や豆、海藻、きのこをとるように心がけましょう。

#### ⑤朝食を必ずとる習慣を

朝食は一日の生活リズムを整える基本。朝、眠りから覚めて腸は刺激を感じやすくなっています。朝食をとって腸の動きを活発にさせましょう。

#### ⑥水分補給を忘れずに

水分をたっぷりとることで、便が適度にやわらかくなって排泄しやすくなります。朝起きたらコップ一杯の水を飲むようにすると、胃や腸を刺激し、便意を催しやすくなります。

#### ⑦睡眠をたっぷりとる

睡眠時間が短いとその分、活動時間が延び、その間、肝臓は働き続けることとなります。睡眠は肝臓にとっても重要な休息です。日付が変わらないうちに休みましょう。

肝臓と腸にやさしい食生活を送るとともに、体と心の大掃除をして、年末年始を健康で過ごしましょう。

### 腸や胃を元気にする一品「かぶの柚子香りあえ」



#### 材 料 <1人分>

かぶ	40g
かぶの葉	10g
人参	10g
油揚げ	5g
ひじき(乾)	5g
柚子の絞り汁+酢	小さじ3
A 塩	0.5g
みりん	小さじ1

#### <作り方>

- ①ひじきはもどして熱湯に通し、食べやすい長さに切る。
- ②かぶ、人参は薄いイチヨウ切りにし軽く塩をふり、しんなりしたら塩分を流し、水気を切る。かぶの葉はゆでて、2cm長さに切る。
- ③油揚げは湯通しし、3cm位のせん切りにする。
- ④全ての材料の水分を切り、Aの調味料で和えます。

# ぶらり

なんたん ⑪

## ～八木スポーツフォアオール～

すべての方に心温まるサービスを提供

八木町大堰川緑地公園のすぐ近くにある「南丹市八木スポーツフォアオール」。ここに、足湯やお風呂、多目的ホール、体験学習室などがあるのはご存じでしょうか。

一階の入浴施設「やぎの湯」は、入浴料三百円で午後三時から九時まで受付、広い脱衣場と、ゆったりとした湯船で入浴していただけます。

平成十七年四月に設置された足湯コーナーは、一回百円で午前十時から午後四時まで手軽にご利用でき、大堰川を



▲近隣市町からも、足湯の効能を求めて来られます



▲温泉スタンド（八木町水所）

望むテラスでのんびり足から全身が温められます。ここでは、「ほのほの八木の湯」（同町水所）の湯を使用しており、良質の療養泉で神経痛・筋肉痛・関節痛・冷え性・疲労回復などに効果があります。

三階には、鏡を見ながらレッスンできる広い多目的ホールがあり、社交ダンスのサークルや3B体操などで利用されています。



▲社交ダンスなどの利用に最適です

二階のミーティングルームは、南丹市体育協会の加盟団体が登録制で会議などに利用ができ、体験実習室では、人気のお花教室が現在定期的に開催されています。

### ぶらり案内



NPO法人八木町スポーツ協会  
事務職員 八木 真由美 さん

NPO法人八木町スポーツ協会の事務職員八木さんには、優しく穏やかな対応で施設を案内していただきました。来られる方が気持ち良く施設を利用できるよう、笑顔と温かい言葉で対応されています。寒さが厳しく風邪がはやる冬場には、足湯で全身を温めるのが効果的で、近くの方はもちろん、亀岡市などからも施設を利用されるそうです。この足湯の弱アルカリ性の湯は、スポーツフォアオールまたは氷室の郷で専用コイン（1枚20円で20リットル分）を購入すれば、氷室の郷近くの温泉スタンドで入手でき、2～3倍に薄めて家庭でも利用できます。



▲施設全景

### 南丹市八木スポーツフォアオール

TEL/FAX (0771)42-5366

- ◆住所：南丹市八木町西田柳原15番地1
- ◆交通：国道9号線から八木駅前交差点を大堰川方面へ。大堰橋を渡って右折すぐ。
- ◆休館日：木曜・年末年始
- ※利用料・設備などの詳しいことはお問い合わせください。



▲南丹・船井の中学生による美術作品

南丹市・京丹波町の中学校8校から出展された中学生の美術作品展が、11月11日・12日に日吉町生涯学習センターで開催されました。授業の中で制作した絵画・デザイン画・照明・木彫パズルなどの美術作品320点がエントランスホールに並び、2日間で300人を超える方が美術展に会場しました。個性的なデザインや、細かく精密に重ねられた描写、一つ一つ丁寧に仕上げられた作品に、訪れた人々は足を止めてじっくりと見入っていました。なお、作品が出展された生徒には、後日、賞状が贈られました。

## 「発掘！中学生の若き感性が光る美術展」

(11/12・第1回南丹・船井中学校教育美術展・日吉町)



▲講師（左）の指導を受ける写真教室の受講者

## 「カメラに一瞬を収める魅力的な撮り方を学ぶ」

(11/22・写真教室・ミニ写真展・日吉町)

7月から日吉町生涯学習センターで開催している写真教室（全8回）では、弓削政氏を講師に、市内各地で野外撮影会を行い、撮った作品の講評を中心とした講義を受けながら、現在16人が受講しています。

その成果を発表するミニ写真展が、11月22日から同センターエントランスホールで開催され、教室の受講者は展示された自分たちの作品を鑑賞しながら、より魅力的なアングルや撮影のタイミングなどについて、講師の指導を受けました。

# みんなのひろば

## まちの話題を 紹介します



身近な話題を広報係(0771)68-0003へお寄せください。

## 「八木駅伝競走で健脚を競う」

(11/12・八木駅伝競走大会・八木町)

八木運動公園をスタート・ゴールとする第24回八木駅伝競走大会が、NPO法人八木町スポーツ協会主催で開催されました。小学生・中学生・一般の合計16チームが参加し、6区間・約17kmを一本のたすきでつなぎました。コース内は、交通指導員や各地区社会体育振興会役員らによって走路の安全が確保され、南丹警察署の協力による先導や救護体制も整えて行われました。それぞれの健脚とチームワークが競われ、小学生の部は八木サッカースポーツ少年団、中学生の部は八木中男子駅伝チーム、一般の部は京都中部広域消防組合Bが優勝し、区間新記録も出されました。



▲たすきをつないで、ゴールを目指します



▲こっけいなやりとり、思わず笑いが起こります

茂山狂言会による「狂言会」が日吉町生涯学習センターにて行われ、「蝸牛」と「棒縛」が上演されました。「蝸牛」では、カタツムリを見たことがない太郎冠者が『頭が黒くて、腰に貝をつけ…』山伏の姿をカタツムリだと思ひ込みます。面白がってなりすます山伏が「でーんでん、むーしむし」と繰り返すお囃子に、会場は大きな笑いに包まれました。年齢を問わず、小さなお子さんでも楽しまれた舞台でした。

(11/12・狂言会・日吉町)

## 「子どもも大人も笑える狂言の面白さ」

11月18日・19日の2日間、美山大野ダム公園で、秋を彩るもみじ祭りが開催されました。地元美山の特産品や手作りのうまいもんフェア、立派な新鮮野菜が並ぶ青空市場など、訪れた人々で賑わいを見せていました。2日目は午後からあいにくの雨模様でしたが、午前中にはもちつき大会も行われ、燃えるように赤く色づいた見事な紅葉をめながらダム公園内を散策する家族連れ姿がありました。



▲丹精して作られた野菜が並ぶ青空市場

(11/18・第18回大野ダムもみじ祭り・美山町)

## 「秋真っ盛りの大野ダムでもみじ祭り」



▲難しいけれど楽しいそば打ち、職人に指導を受けます

## 「そばを通じた交流 毎年夏と秋に開催」

そば作りの体験を通じて、美山町鶴ヶ岡地区と京都市内の住民らが交流を行っている「ごんべの会」のそば収穫祭が鶴ヶ岡小学校で行われました。参加者は近くの畑で大根ほりをした後、手打ちそばと熱々の地鶏鍋に舌鼓を打ちました。また、「実りの秋まつり」(同地区開催)に参加していた鶴ヶ岡小学校の児童も合流し、そば打ち職人の指導でそば打ち体験などをしました。

(11/19・ごんべの会 そば収穫祭・美山町)

## 「学校と家庭以外の社会を体験」

南丹市内の中学校では、学校と家庭以外の社会を知り、幅広い目で社会を見つめる機会にと、各職場で、実際の仕事を体験させる学習を行っています。

11月9日・10日の2日間は、園部中学校の2年生の生徒が、市内の54カ所の職場で体験を行いました。

南丹市役所には3人の生徒が文化祭の会場準備や広報取材などを体験。「お客さまに気持ちよく来ていただいて、気持ちよく帰っていただけるようにする」という姿勢を職員に教わりながら作業を行ったほか、広報取材では、同級生が頑張る姿を写真に収めていました。

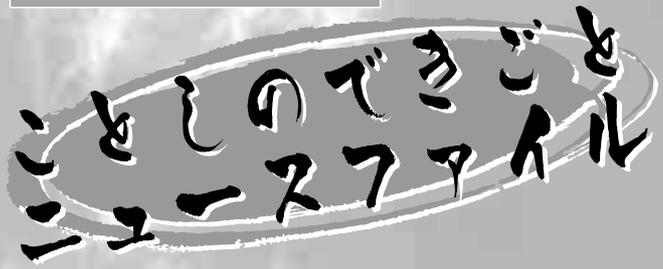


▲広報取材体験をした生徒が撮影しました

(11/16・園部中生が職場体験・園部町)

# 平成18年

# 2006年



## 一月～三月

南丹市発足(一月一日)：園部町・八木町・日吉町・美山町が合併して喜びの「開市式」

南丹市営バス「美山園部線」新設・発車式(一月四日)

南丹市「業務開始式」(一月四日)  
：本庁・四支所で業務開始

南丹市社会福祉協議会開所式(一月四日)

南丹市農業委員委嘱状交付式  
第一回総会(一月五日)

南丹市消防団発足式・出初式(一月八日)：初の出初式をスプリングスひよしで行う

南丹市長・南丹市議会議員選挙  
挙投開票日(二月十九日)：市

長と二十六人の新議員が誕生  
明治鍼灸大学付属鍼灸センター二十五周年、同付属京都駅前鍼灸センター十五周年記念式典及び記念祝賀会(二月十九日)

南丹市民生児童委員協議会設立総会(三月十一日)

南丹市長職務代理者に國府正典南丹市参与就任(三月十六日)

明治鍼灸大学看護学部棟並びに食堂棟竣工式・施設見学会・祝賀会(三月二十一日)

「郷の駅胡麻屋」開業(三月二十六日)：JR胡麻駅横に特定非営利活動法人胡麻地域振興会が市の施設を利用した店舗をオープン、この日記念レセプション

## 四月～六月

南丹警察署発足(四月一日)

南丹市野生鳥獣被害対策運営協議会(四月六日)

府立園部高等学校附属中学校開校式ならびに平成十八年度入学式(四月七日)

日吉ダム水没移転者二十周年記念の集い(四月九日)

南丹市体育協会設立総会(四月十六日)

南丹市老人クラブ連合会設立総会(四月十八日)

平成十八年度南丹市食生活改善推進員連絡協議会総会(四月十八日)

南丹市誕生記念 第九回日吉ダムマラソン大会(四月二十三日)

南丹市長選挙投票日(四月三十日)：前市長の辞職により佐々木稔納市政がスタート

園部福祉、日吉、八木、美山シルバー人材センター統合調印式(五月十七日)

南丹船井自衛消防隊連絡協議会設立十周年記念式典(五月十七日)

南丹船井交通安全協会設立総会(五月十七日)

南丹市身体障害者福祉会設立総会(五月十八日)

南丹船井危険物安全協会設立総会(五月二十六日)

南丹市保育所連絡協議会設立総会(六月三日)

南丹市婦人会設立総会(六月二十四日)

城谷口古墳群で蛇行剣出土(六月二十八日)：南丹市八木町北広瀬・城谷口古墳群で古墳群十一基と近畿初の六世紀の蛇行剣出土

南丹地区保護観察協会設立総会(六月三十日)

## 七月～九月

総務部に監理課新設(七月一日)：機構改革により入札、契約を専門的に対応

園部福祉、日吉、八木、美山シルバー人材センター統合記念式典(七月一日)

南丹市八木町西田で官山川統合堰しゅん工式(七月一日)

助役二人体制に(七月一日)：仲村脩助役、岸上吉治助役就任

平成十八年度南丹市文化協会連絡協議会第一回役員会(七月十九日)

南丹市体育協会設立記念祝賀会(七月二十二日)：橋本聖子参議院議員が記念講演を行う



▲佐々木市政スタート

▶南丹市発足「開市式」





▲ジャトコ(株)新工場完成記念式典

# さようなら

南丹市老人クラブ連合会初のゲートボール大会(七月二十五日)

園部消防署日吉出張所完成式(七月三十一日)：南丹市誕生に伴い防災の拠点施設が完成

全京都車いす駅伝競走大会(八月三日)：丹波自然運動公園で行われた大会で地元チームが優勝するなど大健闘

NHK公開番組収録(八月六日)：南丹市誕生を記念して教育テレビ放映の福祉ネットワーク番組を収録

南丹市と大手和菓子メーカー「虎屋」が企業誘致協定書を締結(八月十日)

天若湖アートプロジェクト「あかりがたなぐ記憶」(八月十九日)：日吉ダムで水没した集落を灯で再現するイベント

国際親善試合「パンパシフィック野球大会」で園部少年野球クラブが優勝(八月二十一日)

殿田小学校改築工事起工式(八月三十一日)

緊急時連絡体制及び初動体制の確認訓練(九月八日)：緊急時に備え、市本庁・支所の職員が早朝六時ころから実施

第一回市長杯争奪南丹市軟式少年野球大会(九月十日)

平成十八年度五ヶ荘校区市民体育大会(九月二十四日)：殿田小学校との統合により最後の運動会となる

南丹ビートフェスティバル(九月三十日)：和太鼓の共演に市内から十二団体が参加

## 十月～十二月

南丹市政記者クラブ発足(十月一日)

社会福祉法人「京丹波福祉会」グループケアホーム「あしたーる風和里」オープン(十月一日)

第一回バス交通整備計画検討委員会(十月三日)

下吉田トンネル安全祈願祭(十月四日)

五ヶ荘小学校・殿田小学校統合調印式(十月五日)

ジャトコ株式会社八木新工場増築記念式典(十月十一日)

るり溪に天体観測施設完成(十月二十四日)：財団法人園部町振興公社が運営する天体観測施設と飛行機展示場屋根が完成し、しゅん工式とオープニングセレモニーが行われる

河鹿合唱団創立六十周年記念演奏会(十月二十九日)：戦後間もない舞鶴からの引揚

者や園部駅でコーラスで迎えたことで知られる合唱団の記念演奏会

各町文化祭(十一月三日～)：園部、八木、日吉町で文化祭がスタート、舞台発表や展示を通して市民が交流を深める

社会福祉法人長生園創立五十周年記念式典(十一月十五日)

南丹市身体障害者福祉会「福祉大会」(十一月十七日)：功

労者表彰や記念講演を通して社会参加と自立を考える

国道四七七号・殿谷バイパス完成通行可能に(十一月十七日)

南丹船井交通安全大会(十一月十八日)：市内パレードや写真展などで交通事故防止を啓

発

南丹市PTA連絡協議会発足記念子育て講演会(十一月十八日)

南丹・京丹波林業振興会通常総会(十一月二十一日)

丹波広域基幹林道推進協議会総会(十一月二十一日)

佛教大学との調印式(十一月二十二日)：旧美山町から続けてきたまちづくりや教育、研究活動で相互協力する地域連携協定に調印

南丹市人権教育・啓発推進協



▲(株)虎屋と企業誘致協定書締結

議会設立総会(十一月二十二日)

南丹市行政改革推進委員会答申(十一月二十七日)

高齢者あんしんコーディネーター事業協定締結式(十一月二十七日)

第一回南丹市総合振興計画審議会開催(十一月二十九日)

京都新光悦村企業立地に向け山田啓二知事と佐々木稔納市長が記者発表(十一月二十九日)

京都医療技術短期大学四年制大学へ(十一月三十日)：来春、京都医療科学大学開校に向け、文部科学省より認可

南丹市人権講演会(十二月二日)

# なんたん歳時記

-11-



## 夫婦神事

—八木町日置・氷所—

南丹市八木町の隣り合う二集落、日置と氷所の祭り「夫婦神事」。日置の大送神社の女の神様と氷所の幡日佐神社の男の神様との婚礼を模倣した行事で、毎年十月二十一日に行われています。

夫婦神事は天正年間（信長の政権期）からと言われ、田植期の水争いが絶えなかったことから、仲たがいをやめようと始まったとされています。

祭りでは、女の神様が待つ大送神社へ七回半（現在は三回半）男の神様が使いを送ると、これに応じた女の神様の一行が幡日佐神社へ向かいます。女の神様として区長が馬に乗り、農事組合長、消防部長などが行列を組みます。

神社到着後は婚礼をあげ、男の神様が馬上から矢を射つて来年の稲の収穫を占う流鏝馬を披露します。

馬と徒歩でのんびりと歩く行列は、見ている人を幸せな気分にしてくれます。

## 編集後記

イナバウアー、品格、格差社会、ハンカチ王子…今年一年を表す言葉はいろいろですが、私の一年は、『一生懸命』の一年。四町の合併によって誕生した南丹市の話題を市民のみなさまにお届けしてきましたが、みなさまの一年を刻む言葉はいかがでしょうか。何はともあれ、来る年に大なる夢を抱いてこの一年の健康に感謝です。どうぞ、よいお年を。

(N)



## わが家のアイドル

●美山町  
うめづ 梅津 ゆうさく 雄作くん (3歳)

「いっぱい一緒に遊ぼうね」

(お兄ちゃんより)

## DATA

- 総人口：36,225人 (-19)  
(男：17,409人・女：18,816人)  
(-9) (-10)
- 世帯数：13,573世帯 (+2)

(平成18年12月1日現在)  
( )内は前月比

写真掲載の応募をお待ちしています。(応募数によっては順番待ちになることがあります) 詳しくは企画情報課秘書広報係まで

広報  
なんたん

編集・発行：南丹市役所 総務部企画情報課  
〒622-8651 京都府南丹市園部町小桜町47

TEL：0771-68-0003 FAX：0771-63-0653  
URL：http://www.city.nantan.kyoto.jp  
e-mail：kikaku@city.nantan.kyoto.jp